

令和4年 第1回 総合教育会議 会議録

開催日 令和4年10月28日(金)

場 所 思いやりセンター

出席者の氏名

町 長	靱山 芳輝	教 育 委 員	堤田 綾子
教 育 長	加藤 雅也	教 育 委 員	小藤 省吾
教育長職務代理者	永田 淑子	企 画 部 長	池田 武彦
教 育 委 員	浅野俊太郎	教 育 部 長	靱山 英巳
総 務 部 長	竹内 誠一	生 涯 学 習 課 長	伊藤誠一郎
企画部次長兼企画政策課長	森田 良孝	学 校 教 育 課 長 補 佐	藤井 千絵
教育部次長兼学校教育課長	榊原 全伸	指 導 主 事	神谷 俊輔
ス ポ ー ツ 課 長	田中 孝往		
指 導 主 事	岩田 圭司		

：欠席者

1. 開会 午後1時15分

(教育部長)

皆様、こんにちは。本日はご多用の中、ご出席をいただき厚くお礼申し上げます。定刻になりましたので、只今から令和4年度第1回総合教育会議を始めます。

本日の会議につきましては、議事録を作成するため、録音をいたします。議事録につきましては、後日町ホームページにて公表しますのでご了解ください。また、本日の進行につきましては、お手元の次第に沿って進めますので、よろしくお願いいたします。

2. あいさつ

(教育部長)

それでは、靱山町長よりごあいさつをお願いします。

(町 長)

皆さん こんにちは。武豊町長の靱山芳輝 です。

日頃は武豊町の教育の充実に向け、それぞれの立場からお力添えをいただき大変感謝申し上げます。

また、本日は、ご多用の中、令和4年度第1回総合教育会議にご出席いただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、本町も令和3年度から、第6次総合計画が実施され、この先10年間を見据えた行政運営を行わせていただいております。

教育関係といたしましては、本年2月には、「ゼロカーボンシティ」への取組の一つとして、給食センターの配送車を「EVトラック」としました。二酸化炭素を排出しない「EVトラック」が学校現場に取り入れられたことで、子どもたちの環境保全への意識をさらに高めることが期待されます。

また、3月には、町内小学校や各施設にフジバカマを植栽していただきました。フジバカマには、その蜜を吸いに最大2千キロメートルの距離を移動する旅する蝶、「アサギ

マダラ」が集まります。今後も、環境に優しい武豊町が、旅する蝶の休憩地になるとともに、その美しい姿を子どもたちをはじめ町民の皆さんに見ていただきたいと考えております。

その他にも、各小中学校の体育館、特別教室の空調設備の設置や学校給食センター建て替えなどを予定しています。環境への配慮に加えて、安全安心を意識した教育環境を整備してまいります。

さて、本日は、「武豊町の児童生徒の現状」「スクールソーシャルワーカー・スクールサポーターの活動実績」「屋内温水プールの学校利用」について報告があります。武豊町の安全安心な教育活動に向けて、町といたしましても学校教育を支えてまいりたいと考えております。

(教育部長)

次に、加藤雅也教育長よりあいさつをいただきます。

(教育長)

みなさんこんにちは。教育長の加藤雅也でございます。

新型コロナウイルスの感染は落ち着きを見せているものの、まだまだ安心はできない状況です。各学校は防止に配慮しながらの2学期を迎え、運動会や学校祭も無事終えることができしております。昨年度の2学期は、放課中の外遊びや、体育の授業、部活動を中止とする時期がありました。中学校では、修学旅行を再度延期とし、日程に苦慮していたことが思い出されます。

本年度は、幸いにも感染状況の谷間に小中学校とも修学旅行や、林間学校等も無事終えることができました。

さて、本年度のトピックとしては、大きく2点あります。1点目は、スクールソーシャルワーカーの1名増員と、空席であったスクールサポーターの着任であります。

2点目は、屋内温水プールにおける、小学校の水泳授業の実施であります。いずれも後ほど、その他の案件も含めて、ご報告をさせていただきます。

このように、武豊の子どもたちのために、教育条件の整備にご配慮くださる、町長さんをはじめとした幹部の皆様のご配慮に深く感謝申し上げます。

本日は、町長さんや教育委員のみなさま、行政の幹部の方々と懇談を深め、今後の教育行政へのご示唆をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(教育部長)

本会議の出席者の確認につきましては、次第裏面にごございます出席者名簿をもって代えさせていただきますので、ご了承ください。

3. 報告事項

(教育部長)

それでは、「報告事項」にうつります。「武豊町の児童生徒の現状について」、事務局からお願いします。

(指導主事)

失礼します。学校教育課 指導主事の神谷です。最初に、「令和4年度 全国学力学習状況調査の結果概要」について報告いたします。

武豊町の児童生徒の特徴として、記述式の問題が苦手な傾向にあります。このことから、自分の考えを自分の言葉で表現することに課題があると言えます。そのため、国語を中心として、いろいろな教科の学習で、児童生徒に自分の考えをまとめ発表する活動を多く取り入れていきたいと考えます。

次に、児童生徒の学習環境や生活習慣について調査した結果についてです。

小学校の児童は、朝食を食べることや、毎日決まった時間に就寝するなど、規則正しい生活を送ることについて、全国平均より肯定的な回答が多くなっています。各家庭において、しっかりとした生活習慣が身に付いている様子が分かります。しかし、規則正しい生活が送れていない児童生徒も一定の割合で存在します。学校の教職員だけでなくスクールソーシャルワーカーやスクールサポーターなどが家庭訪問を行うなどして、今後も対応を進めていく必要があります。

一方課題として、児童生徒ともに、テレビゲームやスマートフォンの利用時間が全国・県と比べて長くなっています。さらに、中学生は、平日の帰宅後や土日祝日の家庭における学習の時間が、短くなっています。家庭学習の習慣をつけるためには、学校での指導だけでなく、家庭の協力が不可欠です。家庭学習と併せて、スマートフォン等の使い方についても、各家庭におけるルールづくりの大切さや、節度ある使い方について、児童生徒とともに保護者に向けても呼びかけ、協力をお願いを継続していく必要があります。

教科の学習については、各教科の勉強が好きと答えた割合が、小学校は国・算・理全教科において低く、また授業の内容がよくわかると答えた割合は、小・中学校ともに、全国・県の平均と比べて低くなっています。児童生徒の関心を高めるとともに、「できた」「わかった」と感じるができる授業を行えるよう、教師の教材研究、授業力の向上が求められています。

以上で報告を終わります。

(学校教育課課長補佐)

学校教育課課長補佐の藤井です。続きまして、私からは、7月、8月に行われました県大会等における結果のご報告をいたします。

はじめに、武豊中学校です。「陸上競技3年男子100m走」では、県大会3位により東海大会出場、「2年男子1500m走」では、県大会4位により東海大会出場という成績を収めました。「女子卓球団体戦」では、県大会3位により東海大会に出場し、ベスト8まで進みました。

「男子新体操団体戦」では、県大会2位により東海ジュニア大会に出場し、5位という成績を収めました。また、「男子新体操個人戦」では、県大会3位により東海ジュニア大会出場を果たしました。

次に富貴中学校です。「陸上競技女子走り幅跳び」では、県大会4位により東海大会出場を果たしました。

「男子卓球団体戦」では、県大会3位により東海大会出場、個人戦では1名が東海大会出場を果たしました。

コロナ禍の影響により、部活動が制限されることがありましたが、感染症対策を講じながら、生徒は練習に励みました。今後も引き続き活躍を期待したいと思います。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします

(教育委員)

他県では、全国学力学習状況調査に向けて事前に対策をしている学校があると聞きました。武豊町は全国学力学習状況調査について、どのような考えで取り組んでいますか。

(指導主事)

武豊町では、全国学力学習状況調査に向けて事前に対策等を行っていることはありません。それは、点数に一喜一憂するのではなく、結果を踏まえて弱点部分の改善に取り組むことや、よい部分をより伸ばしていくことが目的と考えているためです。

また、全国学力学習状況調査では、「質問紙」による武豊町の児童生徒の生活面等の分析も行っています。本年度の結果からは、中学生のスマートフォン等の使用に関する家庭内でのルールづくりが、全国・県よりも不十分なことが分かります。この結果を踏まえて、今後は、学校での情報モラル教育等を充実させ、児童生徒の弱点の克服に生かしていきたいと考えています。

このようにして、結果を踏まえて、児童生徒のよりよい成長へつなげていくことが同調査の目的の一つと考えます。

(教育委員)

私も同意見です。点数に一喜一憂するのではなく、結果をもとに傾向と対策を分析し、町の教職員全体で情報を共有していただきたいと思います。そうすることで、教師による指導方法の差が減り、どの子ども同じ条件で教育を受けることができるようになると思います。

(教育長)

全国学力学習状況調査は、どのような長所があり、どのような弱点があるかを子ども自身が知るための調査と考えます。また、この調査は、春に行う調査です。その後の成長につなげて、次の春にはその成長を実感できるようにすることも目的の一つと考えます。

(教育委員)

武豊の子は素直な子が多いという感想をもちました。その反面、現代の子どもたち特有の悩みである、ゲーム依存等に代表される「ゲーム障害」に関して心配が残ります。

小学生の質問紙の結果からは、コンピュータ等の使い方について家庭内でのルールづくりがしっかりできていることが読み取れました。一方、中学生の結果からは、ルールづくりが不十分ということが分かります。今後も、ゲームやスマートフォン等の使用について家庭内できちんとルールづくりができるように情報モラル教育を充実させるとともに、家庭への啓発も続けていく必要があると考えます。

(教育部長)

ありがとうございました。次に「令和4年度 スクールソーシャルワーカーの活動実績（1学期）」について、事務局からお願いします。

(指導主事)

失礼します。指導主事の神谷です。

本年度よりスクールソーシャルワーカー（以下SSW）が2名になりました。これによって、小中学校とも、週1回はSSWが訪れることが可能になりました。その結果、小学校では、昨年度の同時期と比べて支援をした児童数が大幅に増加をしています。教室で不適応行動を起こしていた児童に対して、SSWと教職員が連携し、効果的な支援を施したことにより、落ち着いて学級で過ごすことができるようになったという事例もあります。

中学校では、支援をした生徒数は小学校ほどの増加は見られませんが、昨年度から継続して支援をしている生徒との関わる時間を十分にもてるようになりました。これによって生徒の心の安定に寄与することができています。

SSWがいちばん多く支援をしている内容は、「家庭環境」に関わることです。この「家庭環境」の改善につなげるために、SSWは積極的に家庭訪問を行っています。継続的に家庭訪問を続けて家庭と学校をつなげたことで、状況が好転したケースがいくつもあります。

また、「教職員・友人関係」「心身の健康」に関する支援も増加傾向にあります。そこで、各校への勤務日数が増えたことを生かし、積極的に児童生徒と関わることで、その子の人間関係や心の状況の把握に努めています。知り得た情報は、教職員やスクールカウンセラー、子育て支援課、時には医療機関と共有し、その子の状況改善につなげていきます。

さらに、本年度からは、新しくスクールサポーター（以下SS）1名を任用いたしました。SSは、不登校児童生徒への支援に関して、高い効果を発揮しています。SSによる本人や保護者への積極的な声かけ等のアプローチにより、登校に結び付いた事例もあります。またSSWと同様に、家庭訪問等を通して知り得た情報は、学校関係者や町適応指導教室（ステップ）の指導員と共有し、対象となる児童生徒の支援に役立てています。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

(教育委員)

不登校は解決の糸口を見つけることが難しい問題ととらえます。しかし、SSWは、その糸口を探ることにつながる重要な役割と言えます。今回の報告でも、SSWによって不登校児童生徒の状況が好転したケースを聞き、嬉しく思いました。

本年度からSSWを1名増員したことで、児童生徒・保護者にとっては、これまで以上に悩みを相談しやすくなったことでしょうか。今後も、学校の教職員では担うことが難しい役割をSSWが果たすことで、不登校の解決の糸口につなげていただければと思います。

(教育部長)

他にはないようですので、次に「令和4年度 屋内温水プールの学校利用」について、事務局からお願いします。

(スポーツ課長)

はじめに、「学校水泳授業について」です。令和4年度につきましては、4月25日から7月14日の55日間で町内4小学校の水泳授業を実施いたしました。利用時間については、午前中の4時限を利用し、温水プールまでの移動時間を含む2時限続きの時間割で、低学年、高学年とも1日に2回ずつの計画で授業を実施いたしました。

利用人数は、水泳授業の見学者を含めて、延べ11,481名の児童が授業に出席し、その内、10,789名が水泳授業に参加いたしました。詳細を各学校別で一覧表にしてあります。

水泳授業は、3年ぶりの実施となり、教職員、児童共に期待と不安を感じながらのスタートでしたが、回数を重ねるうちに施設やバスの移動にも慣れ、児童達のたくさんの笑顔を見ることができました。また、期間中には、大きな事故・ケガなく終了できたことをご報告いたします。

続いて、「教職員によるアンケート結果（授業実施後）について」です。水泳授業期間終了後に、教職員向けにアンケートを実施いたしました。

アンケートでは、「①バスの移動について」「②児童の更衣について」「③指導補助員について」「④監視員について」「⑤授業時間について」「⑥施設管理、安全面での業務の負担軽減につながりましたか」「⑦児童にとって屋内温水プールでの水泳授業はよかったですか」の7つの項目について実施しました。

「①バス移動」「②児童の更衣」「⑥業務の負担軽減」「⑦屋内温水プールでの水泳授業」につきましては、概ねよい評価をいただきました。しかし、「③指導補助員」「④監視員」につきましては、業務内容の共通理解をはかることができず、一部の教職員の先生方を困惑させてしまいました。

令和5年度では、業務内容の共通理解をはかり、よりよい水泳授業となるように努めてまいります。

また、「⑤授業時間」につきましては、これまでの校内での水泳授業より授業時間が少なくなったと感じられた教職員の先生方もおられたようです。授業時間につきましては、限られた時間の中で少しでも長く確保できるように、各学校の実践事例を紹介するなど、意見交換を行いながら、町内小学校全体の課題として、授業時間を確保できるように努めてまいります。

今年度の反省や要望を生かし、児童、教職員に対する指導補助員、監視員のサポート体制などの改善を行い、令和5年度に向けてよりよい準備をしていきます。

なお、「令和4年度 屋内温水プール学校利用の実績」「武豊町屋内温水プール水泳授業アンケート結果」につきましても、資料を添付してありますので後刻お目通し下さい。

(教育部長)

只今の報告事項につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

(教育委員)

屋内温水プールができる前は、各学校では、プール開始に向けて教職員や児童生徒によるプール掃除を行っていました。コケ等の汚れを取る作業はかなり大変とういうことを聞いたことがあります。また、プール開始後も、毎日、水質管理のための薬剤投入や気温等の記録等を行うなど、水泳の学習は、教職員の大きな負担によって成り立っていました。

しかし、本年度より、屋内温水プールが完成したことにより、その負担は解消され、教職員の業務改善に役立ちました。働き方改革につながるすばらしい取組と言えます。

また、屋内温水プールでの水泳授業開始後も、学校の要望を聞き取り、改善を繰り返すことで、日々よりよくなっていったとも聞いています。その上で、本年度の成果と課題を十分に吟味し、次年度に生かして、子どもたちの笑顔があふれる水泳学習につなげていただければと思います。

(スポーツ課長)

次年度に向けて、本年度の成果と課題をもとに改善を施し、よりよい屋内温水プールの運営につなげていきたいと思っています。

4. 意見交換

(教育部長)

特にないようですので、これで報告事項を終わります。

続きまして、本来であれば協議事項にうつりますが、今回、協議事項はありませんので、そのまま意見交換に移ります。

(教育委員)

武豊町が11月から1月まで実施する小中学校における給食費無償化について、感謝いたします。最近の物価上昇により、苦しさを感じている子育て世帯がいることと思います。このような施策に多くの方が感謝をしていることでしょう。

また、これまで、小中学校における空調設備の整備やICT機器の導入など、武豊町は子どもたちために様々な施策をいち早く実施してくれています。子どもを大切にされたこのような施策の実施に、心から感謝いたします。

(教育委員)

全国学力学習状況調査の結果からは、武豊町の児童生徒のよさや課題を知ることができました。その中で、児童生徒の自己肯定感が低いことが気になりました。これは、ひょっとしたら、学習の到達度と関係があるかもしれません。今後は、児童生徒が「できること」を実感できるように支援することで、「できた」「わかった」を増やし、その子の自己肯定感を高めていければと思います。そうすることで、自分に自信をもつことができるでしょう。それによって、ゲームやスマートフォン依存になる子の減少にもつながると考えます。

また、SSWやSSによる家庭訪問の件数の多さに驚きました。多くの手厚い支援によって、武豊町の児童生徒は見守られていることを実感しました。

さらに、屋内温水プールでの水泳の学習における児童生徒の欠席者・見学者の少なさも初めて知りました。屋内温水プールでの学習が児童の喜びになっていることの表れでしょう。

教育に関する様々な施策からは、武豊町の手厚さを実感することができました。

(教育委員)

子育て世代の一人として、3か月間の給食費無償化に感謝いたします。このような施策によって家庭が得た余裕は、子どもの成長に還元されることでしょう。

全国学力学習状況調査の結果から、武豊町の中学生は、「スマートフォン等の利用における家庭でのルールづくりが不十分」ということが分かりました。中学生のスマートフォン利用によるトラブルは増加傾向にあると聞いています。中学生という多感な時期を鑑みると、親と子どもが一緒になってルールづくりを行うことは、時には子どもからの反発を生むかもしれません。しかし、子どもをトラブルから守るためにも、家庭できちんと話し合う必要があると考えます。まずは、家庭できちんとルールをつくり、その上で、学校と連携することで、児童生徒の健全な成長につなげていければと思います。

(教育委員)

先日、武豊町の文化創造プラン策定検討会議に参加しました。その際、様々なイベントの企画に携わるボランティアの方と話をする機会がありました。その方々の思いは、より多くの武豊町の人々が、イベントに参加をしてほしいというものでした。

そのためには、小さい頃から、素敵な音楽を聞いたり、心に残る芝居を見たりするなどの、楽しい経験を積むことが大切だと考えます。そのような経験をした子は、将来大人になったときに、自分の子にも同じ経験をさせてあげたいと願うようになるでしょう。

武豊町の素晴らしさは、小学生のときから学校において様々な芸術家と出会う場を設定していることです。このようなアウトリーチ活動は、子どもの心に感動を残すことにつながるでしょう。子どもの頃から演劇等の文化に触れ合うことで、文化に関心をもち、将来取り組みたいという気持ちを涵養することができると考えます。そのような意味では、今後は小学校に加えて、保育園でも、人形劇などに触れ合う機会を与えていただければと思います。

(町 長)

教育委員さんから話があったように、私も「本物との出会い」は大切と考えます。他の自治体では、毎年、落語家を招いて、本物との出会いの場を設けているところもあります。本物との出会いに感銘を受け、本人の生き方が大きく変わることがあったとも聞いています。

武豊町は、令和6年には、町政70周年を迎えます。その記念事業の中で、本物との出会いの場を設けたいと考えています。それによって、町民の皆さまに感動を与えることができればと思います。具体的にはまだ決まっておりませんが、よいアイデア等がありましたら、ぜひ、お聞かせくださいますようお願いいたします。

(総務部長)

武豊町の令和3年度の歳入は約182億円、歳出は約171億円でした。歳出における教育費は約45億円でした。その内訳は、屋内温水プール建設や、武豊小プール跡地の駐車場整備、緑丘小外壁工事等です。

本年度の歳入予算は約144億円、歳出における教育費は約19億円になります。その内訳は、武豊小・武豊中・富貴中体育館防水工事、緑丘小トイレ改修工事等になります。体育館の防水工事は、体育館へのエアコン設置への前提工事にもなります。

そのほかにも、11月から1月までの3か月間、給食費を無償とします。今後も、児童生徒の充実した学びの環境づくりに努めていきたいと思っております。

(企画部長)

SSWは、導入当初は非常勤職員でした。その後、令和3年には正規職員として任用し、本年度は新たに1名増員しました。先程、SSWの活躍を聞き、嬉しく思いました。今後のさらなる活躍を期待いたします。

さて、武豊町では、10月31日よりホームページを全面リニューアルいたします。スマートフォン対応として、視覚的に検索しやすく、操作性が高いレイアウトになっています。今後も、よりよいホームページとなるように情報の更新に努めることで、利便性の高いサービスの提供と、さらなる武豊町の魅力発信に努めたいと考えています。

さらに、本年度からは、「たけとよ日和編集部」を新たに発足しました。12名のメンバーが、それぞれ取材した内容をインスタグラムや「広報たけとよ」で発信しています。機会がありましたら、ご一読していただければ幸いです。

また、武豊町議会では、タブレット型端末の導入を行いました。議員等に配付することで、ペーパーレス化を実現し、武豊町が目指すゼロカーボンシティへの一助としています。

(企画政策課長)

最初に、「名鉄知多武豊駅西グランドデザイン」について、お話をいたします。「第6次武豊町総合計画」及び「武豊町都市計画マスタープラン」を策定し、その中で、名鉄武豊駅周辺とJR武豊駅をつなぐ一帯を「都市拠点」として定めています。また、武豊中央公園周辺を「公共交流拠点」として位置付けています。

この「都市拠点」と「公共交流拠点」を一体的な一つの拠点としてとらえ、概ね20年先を見据えた長期のビジョンとして、具体的なまちづくりの方向性を示したものが、「名鉄知多武豊駅西グランドデザイン」になります。同計画は現在策定中ですが、11月には内容が確定し、年明けには製本する予定です。

続いて、「ネーミングライツパートナー事業」について、ご紹介いたします。公共施設に愛称をつけ、施設への親しみやすさ、魅力向上を目的とした事業であり、屋内温水プールを対象にしています。募集をかけたところ、1社の応募がありました。選定の結果、優先交渉者として、現在協議を進めています。年内には契約を締結し、令和5年4月1日から令和10年3月31日までの5年間、ネーミングライツの愛称を使用することになる予定です。

最期に、「結婚新生活支援事業」についてです。これは、婚姻に伴う新生活への経済的支援を目的とした事業です。新居の購入費、家賃、引っ越し費用等への支援が主な内

容になります。現在、7組から申請を受け、支援を実施しています。武豊町への移住、定住の促進へとつながる事業になると考えますので、引き続き同事業の促進に努めてまいります。

(町長)

先程申し上げたように令和6年10月6日には、町政70周年記念事業を予定しています。皆様からも同事業につきまして、アイデアがありましたら忌憚なくご提案いただければと思います。

また、「名鉄知多武豊駅西グランドデザイン」に記されているとおり、令和5年中には半田消防署武豊支所が武豊中央公園南側（公共機能施設集積エリア）に移転する予定です。本事業は令和13年まで及ぶ長期に渡る事業計画になります。その点につきましても、ご提案ご提言等がありましたら、お聞かせいただければと思います。

(教育部長)

貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

5. その他

(教育部長)

それでは、その他について、事務局お願いします。

(指導主事)

事務局より、2点連絡をさせていただきます。

1点目は、会の始めにもありましたが、本日の協議については、議事録を作成しホームページにて公表させていただきますので、ご承知おきください。

2点目です。次回は、令和5年2月9日午後15時00分から、全員協議会室での開催を予定しています。連絡は以上です。よろしくお願いいたします。

(教育部長)

その他、みなさまから何かございますか。

(教育部長)

ないようですので、これをもちまして、令和4年度第1回武豊町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。